

1984 年度学会賞受賞作品・授賞理由

◆石川賞「観光・レクリエーション計画に関する一連の研究」

鈴木 忠義(東京農業大学造園学科 教授)

〈選考理由〉

氏は昭和 20 年代中頃から当時としては人々があまり関心を持たなかった観光・レクリエーション計画の研究を続け、新たな計画分野の確立に努めたことは評価される。「レクリエーション・エリアにおける人々の集散離合に関する研究(学位論文)以来の成果は鈴木氏の教えを受けた者などと共に著わした土木工学体系「観光・レクリエーション計画」の中の総括編でまとめられている。また、道路景観工学の分野での研究ならびに後進の指導も含めて我国における、これらの研究の先駆的役割を果たしている。土木・造園・社会工学のそれぞれの分野での活動も含め、幅広い研究と教育を続け、都市計画の啓蒙・推進に努めたことは十分認められる。

よって氏のこれまでの研究と構想の提案の業績は石川賞にふさわしいものであると考えます。

◆石川賞「第3世界の地域開発の立案, 実施, 教育への参画と理論化」

長峯 晴夫(近畿大学工学部建築学科 教授)

〈選考理由〉

氏の 15 年間に渡る第3世界の地域開発, 都市計画における業績は国連機関ならびに、第3世界諸国夫々の関係者の間において大きな評価と深い信頼を得ている。

氏は第3世界諸国を対象に、都市・地域開発に関して技術者の養成, 地域開発の為の国際比較, 都市化傾向, 住民の基本的ニーズ開発の手法, 具体的計画立案演習など多くの研究成果を上げられ、多くの国際的場面での活躍と共に、我国の都市計画の発展にも大きく寄与されていると考えられる。

以上の理由から氏の研究は石川賞に相応しいと考える。

◆論文賞「地方都市と大学立地に関する一連の研究」

渡辺 定夫(東京大学工学部都市工学科 教授)

〈選考理由〉

氏は、大学立地が都市発展に寄与する施設であることを計画論として明らかにしてきた。特に都市に立地する大学の地域的諸活動は、都市の中核的機能の一つとして考えられ、その都市の活動維持と成熟過程に大きな効果を発揮するものであり、また都市政策の理念としての総合基本計画に位置づける、ことによって、都市の充実が期待されるという観点から、具体的な都市の多くの高等教育機関特に大学をとりあげ、研究が進められてきた。

この研究の成果は、都市人口規模は大学の立地に強い影響をみることができ、また都市の人口規模と立地する大学規模に関係があることが論証されている。また地方国立大学の専門学部がその地方における高等教育専門分野の構成を決定していることでも明らかとされている。

以上のようにこの一連の研究は、10年の長期にわたる研究の成果がまとめられ、また、他の都市設計などについての方法論や、都市施設計画に関するものなども多く、それらの研究の意義は論文賞としてふさわしいと考える。

◆計画設計賞「高山市まちかど整備－市街地景観設計の成果」

平田 吉郎(代表 高山市長)

〈選考理由〉

高山市では他の自治体に先がけて昭和35年以降、町並保存、河川の浄化、都市緑化などがさかんに行われてきた。特に高山市の場合、歴史や伝統を日常生活空間に溶けこませ、歴史的街並ばかりでなく、一般市街地のシェイプアップを「都市景観づくり」という一連の都市設計政策として展開している。そのひとつに「まちかど整備」がある。まちかど整備とは、辻や橋詰として多様な生活機能をもち、市街地構成のうえで「めりはり」をつけていた都市空間の要所を現代的に見直し、都市景観に新しい機

能とゆとりをもたせたものである。「まちかど整備」は少ない投資ですぐに目に見える形で、街並に「めりはり」をつけ、市民や観光客に対する環境の改善効果は大きい。また「まちかど」を整備したあと、周辺住民がその管理を引きうけたり、自分の家の周囲の美化に努めたり、また他地域の住民から「まちかど整備」の要請がでたりするなど、整備効果は多方面にわたっている。

よって設計計画賞にふさわしいと考える。

◆論文奨励賞「交通需要予測モデルの精度と評価に関する研究」

桐越 信(建設省新潟国道工事事務所 調査課長)

〈選考理由〉

本論文は交通需要予測モデルの精度の評価法及び、それに関連する諸問題を論じたものである。

まず、従来のモデルの予測精度の評価法として5つの方法を概観し、数値計算例を示しながら各々の特徴を比較している。つぎにモデルの精度を示し易い新しい評価基準を提案し、モデルの作成及び評価に当り、有用な手掛りを得られるようにしている。これは従来の基準の不十分な点を補うものといえ、交通需要予測モデルに限らず一般に利用可能な基礎的なものといえ予測理論に新しい論点を加えた意味で有意義なものといえる。

これは、都市計画の基礎となる各種予測問題の理論の進歩に寄与したものといえ、また将来の発展も期待される。

よって本論文は、論文奨励賞にふさわしいと考える。

◆論文奨励賞「ドイツにおける19世紀後半の都市拡張への対処と近代都市計画の成立に関する研究」

大村 謙二郎(建設省建築研究所 第6研究部都市開発研究室長)

〈選考理由〉

氏は19世紀末から今世紀初頭にかけて、都市の近代化が進む中で、ドイツにおける

都市計画理論の構成過程を文献を通じて詳細に検討されたものである。特に一般には、日本の都市計画建築線、土地区画整理、地域性などはドイツの制度を参考にしたといわれるが、ドイツの都市計画に関する理論上の経過については、ほとんど知られていない。この点について氏は理論的には近代都市計画を「学」として確立した、バウマイスターからジッテそれから物的側面から実践的都市計画を体系化したシュチューベン、制度化に貢献したアダイケスにいたるまで、詳細に展開した大作である。

よって、氏の今後における一層の研究発展を期待したい。

故に、論文奨励賞に相応しいと考える。